

精華町長 杉浦 正省 様

精華町監査委員 井 上 直 樹

同 坪 井 久 行

### 令和 2 年度精華町公共下水道事業特別会計決算の審査意見について

地方公営企業法第 30 条第 2 項の規定により審査に付された令和 2 年度精華町公共下水道事業特別会計決算を審査したので、その結果について次のとおり意見を提出します。

#### 第 1 審査の期間

令和 3 年 6 月 2 5 日から 8 月 3 日まで

#### 第 2 審査の手続

町長から提出された決算諸表が、公共下水道事業の財政状態及び経営成績を適正に表示しているかどうかを検証するため、会計諸帳簿と関係証拠書類との照合やその他必要と認められる審査手続を実施した。また、公共下水道事業が常に効率的経済的運営を図りながら、町民の日常生活に密着する公営企業として円満な事業サービスの提供に努めているか等、その事業運営の適否と正確な経営成績内容の把握を主眼とし、関係職員から説明を聴取した。

#### 第 3 審査の結果

- 1 審査に付された決算諸表は、法令に従って作成され、その計数は正確であり、財政状態及び経営成績をおおむね適正に表示しているものと認める。
- 2 予算の執行、経理事務及び財産の管理など財務に関する事務の執行は、法令に従い、おおむね適正に処理されているものと認める。

## 第4 補足意見

### 1 財政状態について

精華町公共下水道事業は、平成31年4月より地方公営企業法の適用を受ける事業に移行した。地方公営企業法適用後、2度目の公共下水道事業特別会計決算となる今年度において、一般会計繰入金のうち総務省通知による繰出基準に該当する繰入れは他会計負担金に、該当しない繰入れは他会計補助金に計上するなどの受入科目の整理を行っている。

当年度の損益計算書における経常利益は96,588千円（前年度は経常損失152,392千円）であるが、営業外収益に一般会計からの繰入金である他会計負担金が366,396千円（前年度378,311千円）計上されている。つまり、一般会計繰入金があつての損益構造であり、公共下水道事業単独で収支が成り立つ状況にはない。

また、当年度末の貸借対照表において、現金預金が154,836千円（前年度221,431千円）計上されている。損益計算書の営業収益630,522千円（前年度538,099千円）に対し、約3か月分の現金残高であるが、有形固定資産29,030,279千円（前年度29,689,761千円）の更新や維持管理も考慮すれば、財政状態が安定しているとは言えない。さらに、当年度末における企業債残高が8,981,415千円（前年度9,416,769千円）と多額であり、当年度においても638,654千円（前年度599,734千円）の償還を行っている。令和3年度においても、流動負債に計上された企業債残高660,986千円の返済が見込まれる。企業債の償還期限が令和32年度まで設定されており、今後も企業債の返済負担が長期に渡り続いていくこととなる。

当年度においては、令和元年10月に実施した下水道使用料改定による増収効果を得ているが、引き続き、厳しい財政状況を鑑み、経営状況の迅速で精緻な把握に努めるとともに、資金繰り状況を注視する必要がある。

## 第5 決算の概要

### 1 事業運営の概況

公共下水道事業の経営成績の基準となる各業務の実績は、以下のとおりである。

ア 年間総処理水量は、3,600,521 m<sup>3</sup>で、前年度の3,525,095 m<sup>3</sup>よりも75,426 m<sup>3</sup> (2.1%) の増加

イ 年間総有収水量は、3,845,948 m<sup>3</sup>で、前年度の3,777,048 m<sup>3</sup>よりも68,900 m<sup>3</sup> (1.8%) の増加

ウ 下水道使用料は、583,506千円で、前年度の493,190千円よりも90,317千円 (18.3%) の増加

エ 年度末処理面積は、781.1ヘクタールで、前年度の781.0ヘクタールよりも0.1ヘクタール (0.01%) の増加

オ 年度末水洗化人口は、35,530人で、前年度の35,657人よりも127人 (0.4%) の減少

公共下水道の供用開始面積は、既存地区及び開発地区合わせ前年度末現在781.0ヘクタールから当年度末現在で781.1ヘクタールに拡大したが、行政人口の減少等により、水洗化人口は、前年度末現在35,657人から当年度末現在35,530人に減少した。

令和元年10月から下水道使用料を改定したことのほか、供用開始面積の拡大に伴い有収水量が増加したことなどにより、下水道使用料は、前年度493,190千円と比較して90,317千円 (18.3%) 増の583,506千円となっている。

## 2 予算執行状況について

### (1) 収益的収入及び支出について

収益的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

#### ア 収益的収入（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
公共下水道事業収益	1,800,672	1,892,995	92,323	105.1
営業収益	635,209	688,970	53,761	108.5
営業外収益	1,165,363	1,175,410	10,047	100.9
特別利益	100	28,614	28,514	28614.4

収益的収入の決算額は、1,892,995千円で、予算額1,800,672千円に対し、92,323千円の増、収入率は105.1%となっている。予算額に対する営業収益の増は、下水道使用料の増等によるものである。特別利益の増は、過年度損益修正益の増によるものである。

#### イ 収益的支出（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
公共下水道事業費用	1,800,672	1,765,819	0	34,853	98.1
営業費用	1,609,949	1,588,889	0	21,060	98.7
営業外費用	190,623	176,930	0	13,693	92.8
特別損失	100	0	0	100	0.0

収益的支出の決算額は、1,765,819千円で、予算額1,800,672千円に対し、34,853千円の減、執行率は98.1%となっている。予算額に対する営業費用の減は、木津川上流浄化センター維持管理負担金の減等によるもので、営業外費用の減は、消費税の支払に係る雑支出の減によるものである。

## (2) 資本的収入及び支出について

資本的収入及び支出の状況は、次のとおりである。

### ア 資本的収入（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	対予算額増減	収入率
資本的収入	1,143,301	573,260	△ 570,041	50.1
企業債	310,800	203,300	△ 107,500	65.4
他会計負担金	611,236	171,352	△ 439,884	28.0
他会計補助金	32,965	87,368	54,403	265.0
補助金	81,300	111,240	29,940	136.8
受託事業収入	107,000	0	△ 107,000	0.0

資本的収入の決算額は、573,260千円で、予算額1,143,301千円に対し、570,041千円の減、収入率は50.1%となっている。

### イ 資本的支出（税込）

（単位：千円、％）

区 分	予算額	決算額	翌年度繰越額	不用額	執行率
資本的支出	1,494,260	936,892	371,913	185,455	62.7
建設改良費	851,706	296,382	371,913	183,411	34.8
固定資産購入費	3,899	1,856	0	2,043	47.6
企業債償還金	638,655	638,654	0	1	100.0

資本的支出の決算額は、936,892千円で、予算額1,494,260千円に対し、185,455千円の減、執行率は62.7%となっている。建設改良費において、翌年度繰越額が371,913千円生じているが、これは、精華第11処理分区整備（旭その3）工事、精華第14処理分区整備（柘榴その6）工事及び片町線祝園構内九百石川2号雨水路改修に係る事業費である。建設改良事業としては、令和2年度流域関連公共下水道事業精華14-1号汚水幹線築造（その7）工事等が実施された。

### ウ 収支の状況

収入決算額 573,260千円

支出決算額 936,892千円

であり、収支差引363,632千円の赤字となっているが、不足分は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額25,737千円並びに当年度分損益勘定留保資金337,895千円で補てんされた。

### 3 経営成績等

#### (1) 収益的収支の状況について

損益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減	
			金 額	率
営業収支				
営業収益	630,522	538,099	92,423	17.2
営業費用	1,543,895	1,533,998	9,897	0.6
営業利益	△ 913,374	△ 995,899	82,525	-
営業外収支				
営業外収益	1,167,894	1,069,057	98,837	9.2
営業外費用	157,932	225,550	△ 67,618	△ 30.0
営業外利益	1,009,962	843,507	166,455	19.7
経常利益	96,588	△ 152,392	248,980	-
特別損益	26,013	0	26,013	皆増
特別利益	26,013	0	26,013	皆増
特別損失	0	0	0	-
純利益	122,601	△ 152,392	274,993	-

営業損益は、913,374千円の損失で、前年度と比較して損失が82,525千円減少している。営業外損益は、1,009,962千円の利益で、前年度と比較して166,455千円(19.7%)増加している。この結果、経常利益は、96,588千円の黒字となった。特別損益は、木津川上流浄化センター維持管理負担金について、過年度分の過払金の返還があったことにより、26,013千円の利益であったことから、純利益は、122,601千円で、前年度と比較して274,993千円増加している。

ア 収益について

収益の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減	
			金額	率
営 業 収 益	630,522	538,099	92,423	17.2
下水道使用料	583,506	493,190	90,317	18.3
雨水処理負担金	45,519	43,196	2,323	5.4
その他営業収益	1,496	1,713	△ 217	△ 12.7
営 業 外 収 益	1,167,894	1,069,057	98,837	9.2
受取利息	5	5	△ 0	△ 7.3
他会計負担金	366,396	378,311	△ 11,915	△ 3.1
他会計補助金	104,864	0	104,864	皆増
長期前受金戻入益	692,875	690,193	2,682	0.4
引当金戻入益	3,401	0	3,401	皆増
雑収益	354	549	△ 195	△ 35.6
特別利益	26,013	0	26,013	皆増
過年度損益修正益	26,013	0	26,013	皆増
合 計	1,824,429	1,607,156	217,272	13.5

営業収益は、630,522千円で、前年度と比較して92,423千円（17.2%）増加している。これは、令和元年10月から下水道使用料を改定したことなどに伴い、下水道使用料が90,137千円（18.3%）増加したことなどによるものである。

営業外収益は、1,167,894千円で、前年度と比較して98,837千円（9.2%）増加している。これは、他会計補助金が104,864千円皆増したことなどによるものである。

特別利益は、26,013千円で、木津川上流浄化センター維持管理負担金について、過年度分の過払金の返還があったことによるものである。

以上の結果、総収益は、1,824,429千円で、前年度の1,607,156千円と比較して217,272千円（13.5%）の増加となっている。

イ 費用について

費用の状況は、次のとおりである。

(単位：千円、%)

区 分	令和2年度	令和元年度	増 減	
			金額	率
営 業 費 用	1,543,895	1,533,998	9,897	0.6
管渠費	427,807	425,507	2,301	0.5
ポンプ場維持管理費	21,121	18,073	3,048	16.9
雨水路維持管理費	7,196	7,100	96	1.4
普及促進費	20	110	△ 90	△ 81.8
総係費	43,493	33,574	9,919	29.5
減価償却費	1,044,258	1,049,620	△ 5,362	△ 0.5
資産減耗費	0	15	△ 15	皆減
営 業 外 費 用	157,932	225,550	△ 67,618	△ 30.0
支払利息	155,027	168,551	△ 13,525	△ 8.0
雑支出	2,906	56,999	△ 54,093	△ 94.9
特別損失	0	0	0	—
過年度損益修正損	0	0	0	—
合 計	1,701,827	1,759,548	△ 57,721	△ 3.3

営業費用は、1,543,895千円で、前年度と比較して9,897千円（0.6%）増加している。これは、総係費が人件費等の増加により9,919千円（29.5%）増加したこと、ポンプ場維持管理費が修繕費等の増加により3,048千円（16.9%）増加したことなどによるものである。

営業外費用は、157,932千円で、前年度と比較して67,618千円（30.0%）減少している。これは、消費税の支払に係る雑支出が54,093千円（94.9%）減少したことなどによるものである。

以上の結果、総費用は、1,701,827千円となり、前年度の1,759,548千円と比較して57,721千円（3.3%）の減少となっている。

## (2) 純利益額等について

令和元年度以降の純利益額及び有収水量率は、それぞれ次表に示すとおりである。

### ◎ 純利益（損失）額

（単位：千円）

区別 年度別	純利益(損失)額	利益剰余金
令和元年度	△ 152,392	△ 152,392
令和2 〃	122,601	△ 29,791

### ◎ 有収水量率

区別 年度別	年間総処理水量(m <sup>3</sup> )	年間総有収水量(m <sup>3</sup> )	有収率
令和元年度	3,525,095	3,777,048	107.1%
令和2 〃	3,600,521	3,845,948	106.8%

## (3) 未収金について

年度末の未収金残高は22,571千円で、前年度末の17,173千円より5,399千円（31.4%）増加している。